

# 小児在宅ケア研究会会報

第 17 号 2022 年 8 月 4 日

小児在宅ケア研究会 <http://hc-cf.jp/>

## 小児在宅ケア研究会第 17 回年次集会の報告

### この号の内容

- 1 小児在宅ケア研究会第 17 回年次集会の報告
- 2 2022 年度の総会報告
- 3 修了生の調査の紹介
- 4 編集後記

COVID-19 の問題が発生して、既に 2 年半以上が過ぎようとしています。現在は第 7 波による感染者の急増で、医療機関の皆様は非常に厳しい状況に置かれているのではないかと考えております。また今回の第 7 波では、子どもの感染者も急増しており、小児のワクチン接種や、法律的な扱いなど、新たな問題も出現しています。このコロナの問題では、感染症という疾病が、社会や経済にまで影響を及ぼすことを実感しつつ、このような状況の中、少しでも良い方向に変化していくことを願うばかりです。

さて、前置きが長くなってしまいましたが、今年度も昨年度に続き、小児在宅ケア研究会第 17 回年次集会はオンラインで開催し、119 名の方にご参加頂きました。

今年度の年次集会のテーマは「地域で共に生き、支え合う社会の実現に向けて」として、活動報告・研究報告が 3 件、そして 2 つの講演というプログラムで開催しました。

活動報告は、小児在宅ケアコーディネーター研修会の修了生 2 名が、退院支援に関連した活動と、在宅で過ごされている育児不安のあるご家族への看護について、報告して頂きました。お二人からは具体的な活動が報告され、活発な意見交換が行われました。お子さんやご家族の思いを尊重しながら援助することの重要性を改めて感じました。

研究報告は、小児在宅ケアコーディネーター研修会修了生を対象とした調査の報告をさせて頂きました。今回の会報の中で少し内容をご紹介します。

講演 1 は、清泉女学院大学看護学部の准教授で、親子の未来を支える会の理事をされている北村千章先生から、「チームで関わる、医療的ケア児の就学支援」というタイトルで、特に 22q11.2 欠失症候群のお子さんに対する就学支援に関する、具体的な活動をお聞きすることができました。そして、親子の未来を支える会の河畠そのえさんからは、災害時に備えた避難訓練について、お聞きすることができました。行政を巻き込み、地域の人々の協力を得ながら、お子さんをご家族を支援することの重要性を実感することができました。

講演 2 は、「地域で支え合う社会の実現のために～これまでの体験と取り組み～」というタイトルで、地域と一緒に支え合う会代表の清水辰馬先生から、ご自身の幼少期の体験から現在の活動まで、幅広いお話をお聞きすることができました。医療は大きく変化していますが、障がいと共に生活をしていくお子さんやご家族の体験されていることに、私たち医療者は関心をもちながら、支援をしていくことが大切であると感じました。また、その体験をもとに現在の活躍をされている清水先生のご活躍には感銘を受けました。

今回ご参加頂いた皆様には、アンケートにご協力を頂いております。多くの方に満足して頂けたのではないかと考えております。年次集会のプログラム及びアンケート結果は同封いたしますので、ご確認ください。

今年度もオンライン開催となり、直前でのご連絡などご迷惑をおかけする事もありましたが、参加して頂きました皆様のご協力のもとに、無事に終了できました。本当にありがとうございました。また対面でお会いできる日が来ることを楽しみにしております。

文責 小児在宅ケア研究会副会長京都橘大学看護学部 堀妙子



## 2022 年度第 18 回総会の報告

第 18 回小児在宅ケア研究会総会が、年次集会と同日の 6 月 18 日に開催されました。議事の中では、現在の会員数（129 名）の報告、2021 年度の活動報告が行われました。その後、2021 年度の決算・会計監査（案）、2022 年度の活動計画（案）、2022 年度の予算（案）に関する審議が行われ、全ての事項について承認が得られました。詳しくは、同封させて頂きました総会資料、議事録等をご覧ください。

## 小児在宅ケアコーディネーター研修会修了生の調査の報告

小児在宅ケアコーディネーター研修会は、2003 年度に第 1 回目が開催され、2022 年度は第 17 期の研修会を開催しております。この間に研修会を修了した方は、800 名を超えています。

この修了生の方々が、研修会終了後にどのような活動をされているのかを明らかにすることを目的に、2022 年 2 月～2022 年 3 月にかけて、WEB 調査を行いました。調査内容は、現在の活動状況や、「子どもと家族主体のケア」に対する認識や実施状況、「家族の養育」に対する認識や実施状況などについて、質問項目を作成し、回答頂きました。

実際に調査にご協力して頂いた方は、46 名（回収率 8.6%）と少なかつたですが、コロナの問題が発生しはじめ、混乱し始めた状況の中で協力して頂いた方には、大変感謝しております。

修了生の方の中には、研修会終了後に所属部署や所属施設が変わられ、小児の在宅ケアに関わる仕事をしていらっしゃる方も多く見られました。そのまま小児の看護に携わっているかたは、何らかの形で、小児の在宅ケアに関連した看護を実践していらっしゃいました。

「子どもと家族主体のケア」に関しては、どの方もとても大切であると認識されているようでしたが、実施となるとお仕事が忙しいという事もあるのか、難しいという様子がうかがわれました。また、「家族の養育」に関しても、大切であると認識されている方が多くいらっしゃいましたが、実施は難しいというように、「子どもと家族主体のケア」と同じような傾向が見られました。実施に関しては、多職種との連携や医療的ケアや子どもの思いに関する看護が、できていないと認識されている方が多く、研修会ではそれらを実施することができるような支援を行っていく必要がある事が確認できました。

最後に、研修会に参加したことが、現在役に立っているのかをお聞きしましたが、調査に協力して頂いた方皆さんが、役に立っていると回答して頂いており、子どもや家族にとっての看護を学び考えるようになったことや、子どもや家族の思いや視点を大切にしたい在宅支援を学ぶことができことなどが、役に立っている理由として回答されていました。

調査結果の詳細に関しましては、京都橘大学研究紀要第 48 号にまとめたものを発表しておりますので、ご覧いただけましたら幸いです。

お忙しい中、調査にご協力頂きました修了生の皆様本当にありがとうございました。

堀妙子 奈良間美保 松岡真里 茂本咲子 花井文 上原章江 大須賀美智

## 編集後記

会報第 17 号が完成致しました。コロナの問題はまだ続いており、今年度も年次集会はオンライン開催となりました。小児在宅ケアコーディネーター研修会に関しては、第 3 回（11/20）を対面で行うことを考えております。コロナによる社会の変化は子どもたちの成長発達に大きな影響を与えており、子どもの自殺の増加がみられること等が報道されていたと思います。子どもたちの様子に関して、国立成育医療研究センターや日本財団のホームページなどに、子どもを対象としたいくつかの調査報告がされていますので、ご関心がある方はアクセスをしてみてください。第 7 波の影響を受け皆様も引き続き大変な時間を過ごされていると思いますが、ご自愛ください。

また、年度末に連絡先が変更となる予定の方、退会を希望される方等につきましては、恐れ入りますが、下記の小児在宅ケア研究会事務局までお知らせください。ご協力のほど、どうぞよろしくお願い致します。

小児在宅ケア研究会事務局（京都橘大学看護学部：担当 伊藤・澤田・堀）

E-mail [chc@tachibana-u.ac.jp](mailto:chc@tachibana-u.ac.jp) FAX 075-574-4266

